

積志小学校 活動報告

6年 Hi, friends 2 Lesson5 Let's go to Italy. (全4時間)

(1) 導入の工夫

活動	内容
キーワードゲーム	二人組みになり消しゴムを用意する。国名や有名な建物、食べ物などのフレーズからキーワードを1つ選び、教師が言葉を順番に言っていく。教師がキーワードを言ったら、消しゴムをとり、速く消しゴムをとったほうが勝ち。それにアレンジを加え、グループの人数を3、4人と増やしたり、教師の役を児童に任せたりする。そうすることで簡単なゲームの中に難易度が増し、意欲を高めて行えたり、人数を増やすことで多くの友達とかかわりをもったりすることができる。
ステレオゲーム	国名や建物などのフレーズの中から1人1つのフレーズを選んで、同時に言い、聞いている人が、誰が何を言ったか聞き分けるゲーム。1つの工夫として、選ぶフレーズを、今回の単元の中のフレーズだけでなく、既習フレーズを使っていくだけで難易度が上がり、楽しむことができる。

(2) 「かかわり」を大切にしたいコミュニケーション活動の工夫

① 目的を決めて毎時間の授業に取り組む

本単元では、「行ってみたい国、ナンバー1を決めよう」という目的を設定した。単元の最後には、行ってみたい国を発表したり、その国について質問したりする活動をするを単元の最初に伝えた。そうすることで、目的に向かい意欲をもって学習に取り組むことができる。また、行ってみたい国について、インターネットを使って詳しく調べる時間を設けた。今まで知らなかった魅力的な情報を知ることができるため、児童の友達に伝えたいという思いが大きくなるのを感じた。

② コミュニカティブな活動を目指したゲームの工夫

導入のゲームでは、ステレオゲームとキーワードゲームを毎回行った。その中で、単元の最後で行う活動に必要なフレーズや単語を学ぶだけではなく、質問や反応に使える単語もゲームの中に取り入れた。そうすることで、発表を聞くだけではなく、質問をしたり、反応を返したりすることができるようにした。

(3) 良かったこと

- ・ インターネットを使用した授業を取り入れることで、子どもたちがより興味関心をもって取り組むことができた。
- ・ 質問することや反応することの反復練習を行うことで、単調だった発表がお互いに質問したり、答えたりできるようになった。
- ・ 単元のまとめとしての活動を決めることで、毎時間のゲームで目的をもって行うことができ、意欲がでた。

(3) 課題

- ・ ゲームが固定的になりつつある反省を生かし、ゲームへのさらなる工夫と、子どもたちが興味をもち、楽しく活動できるようなゲームを取り入れていく必要がある。
- ・ より豊かなコミュニケーション活動ができるよういつでも目を合わせて会話をしたり、うなずきながら聞いたりできるよう、毎回の声掛けをしていく。
- ・ 質問や反応に答える単語やフレーズなどは一朝一夕で身に付くものではないと強く感じた。朝の時間や毎時間の外国語活動の中で積み重ねていくことが大切であると感じた。